

DA
2422
1000
HG

博士論文

刺激－反応整合性が異なる運動肢の
反応動作パフォーマンスに及ぼす影響

平成 11 年度

筑波大学大学院博士課程 体育科学研究科 体育科学専攻

加藤雄一郎

寄贈
加藤雄一郎氏

00003626

目次

第1章 序論	1
第1節 研究の意義	1
第2節 研究の目的	3
第3節 用語の定義	5
第4節 研究の限界	9
第2章 文献研究	10
第1節 基本的な情報処理モデルに関する研究	10
第2節 情報処理モデルと反応時間に関する研究	10
第3節 S-R 整合性と反応選択の情報処理に関する研究	12
第4節 S-R 整合性と解剖学的な要因に関する研究	13
第5節 S-R 整合性を説明するモデルに関する研究	14
第6節 随意運動制御に関する研究	18
第3章 研究課題	20
第4章 S-R 整合性が異なる運動肢の選択反応時間に及ぼす影響 (研究課題1)	22
第1節 S-R 整合性が Premotor time, Motor time に及ぼす影響 —単純反応課題と選択反応課題における比較— (実験1)	22
1. 目的	22
2. 方法	23
3. 結果	25
4. 考察	27
図表	31

第2節	反応動作空間の違いと S-R 整合性が Premotor time, Motor time に及ぼす影響 (実験 2)	38
1.	目的	38
2.	方法	39
3.	結果	40
4.	考察	42
	図表	45
第3節	小括	53
第5章	半側空間への選択的注意と S-R 整合性が選択反応時間に及ぼす影響 (研究課題 2)	54
第1節	反応準備状態の違いと S-R 整合性が Premotor time, Motor time に及ぼす影響 (実験 3)	54
1.	目的	54
2.	方法	55
3.	結果	56
4.	考察	58
	図表	61
第2節	半側空間への選択的注意配分の違いと S-R 整合性が Premotor time, Motor time に及ぼす影響 (実験 4)	67
1.	目的	67
2.	方法	68
3.	結果	69
4.	考察	71
	図表	73
第3節	小括	79

第6章 S-R 整合性が異なる運動肢の動作パフォーマンスに及ぼす影響 (研究課題3)	80
第1節 S-R 整合性が空間制御動作に及ぼす影響 (実験5)	80
1. 目的	80
2. 方法	81
3. 結果	82
4. 考察	83
図表	85
第2節 S-R 整合性が力量発揮制御に及ぼす影響 (実験6)	92
1. 目的	92
2. 方法	92
3. 結果	94
4. 考察	95
図表	97
第3節 小括	104
第7章 S-R 整合性が異なる運動肢の反応プログラミングに及ぼす影響 (研究課題4)	105
第1節 S-R 整合性が運動野神経活動に及ぼす影響 － MEG による解析－ (実験7)	105
1. 目的	105
2. 方法	106
3. 結果	108
4. 考察	110
図表	113
第2節 小括	125

第8章 総括	126
第1節 総括的考察	126
第2節 結論	129
第3節 今後の課題	131
関連論文	132
謝 辞	133
文 献	134